

よろこび

日蓮宗 顕聖会

本山 妙顕寺

長春山 本誓寺

『よんじび』五十六（幸福とは何かの再考）

貫首 齊藤 日軌

幸福とは何かをこれまでずっと追い求めてきた。結局喜ぶべき事を喜ぶことである。立派な御殿に住んで、なに不自由の無い暮らしをしていても、自分がそのことに気がつかず、不平不満やいやなことがあるに、御殿もそこは地獄となる。つまり、いれば、天国のようないある。喜ぶべき事があったら、喜べや喜ぶ心は心の山喜ぼう。喜びはまた喜びをつれてくる。喜べや喜ぶ心は沢ことがわからなくなつたのは、私たちが思いや考えを放置してきたからである。マイナス思考で、ぐるぐるいやなこと不安なことは、かき捨てているのである。

このマイナス思考を改めるには、先ず潜在意識の領域をプラス思考にする。それには感謝、光、喜び調和と、感、謝、百、万、遍、陀、羅、尼の、心、を、小、さ、く、か、け、て、リ、ピ、ト、し、て

おくか寝入りばなにかけていると効果がある。そしてあまり細かいこと、理由のない意味のない人からの誹謗等を深刻に受け止めたり、病まないこととである。これには、歌ったり、み、よう。『また思ひをたす事が大切。左、手、が、不、自、由、で、そ、れ、を、苦、に、や、ん、で、い、る、人、が、右、手、が、満、足、に、仕、え、る、こ、と、を、喜、び、感、謝、す、る、よ、う、に、考、え、を、改、め、る。』



みおしえ

「樓み家なる水を離れてうるおいもなき陸の上に、なげすてられし魚のごとく誘惑者まよわしの領土をのがれんとて心ひたすらにたち騒ぐ（法句經三十三友松園諷）」

「水の中の住居すみかから引き出されて陸の上に投げすてられた魚のようになり、この心は、悪魔の支配から逃れようとして、もがきまわる（法句經三十三中村元諷）」

陸の上の逃げ捨てられた魚は、苦しみ身をよじり、悪魔の支配する領土からののがれようと、飛び跳ねる。私たち人間も不幸、苦しみをもち、悪魔から逃れようもがき苦しむ。悪魔は、自分の外に実在すると皆、思うがじつは、悪魔は自分自身の心の中に住む煩惱である。煩惱の根源は貪（とん）・瞋（しん）・痴（ち）の三惑、ぐち怒り足ること、を知らぬ欲望である。此等自分自身の心の煩惱から逃れることが大切である。つまらない自分を責める心、落ち込む心、不幸なことばかり考える心などのネガティブな心から逃れよう。

心の言葉

南無妙法蓮華経と唱え
ネガティブな心から逃れよう。

